

課題名 水田農業の担い手育成と水田の有効利用

<背景と問題点(H22年)>

【背景】

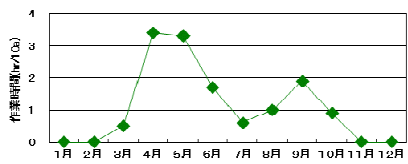
- ・米価が下落基調。
- ・近年、兼業農家の離農が進み、担い手へ農地集積が進展
- ・水田の効率的な利用による所得確保を図るため、水稲に大麦や大豆を組み合わせた経営を推進

【現状】	H22	目標H27
・水稲直播面積	363	→ 500 ha
・大麦単収	290	→ 350 kg/10a
・大豆単収	124	→ 200 kg/10a

※目標単収は、多収農家レベルに設定

【問題点】

【水稲】移植栽培のみでは、基幹作業(春、秋)が集中し、規模拡大に限界感



時期別労働時間 (水稲単作:移植)

- 【大麦】生産農家の栽培技術の差が大きい
- 【大豆】既存品種の収量、品質が不安定

【背景】

- 【集落営農組織 H22: 65組織】
- ・集落単位の組織のため、規模拡大が困難
- ・労働力が豊富
- ・所得向上に向けて、園芸品目による複合経営に意欲的な組織が存在

【問題点】

- 労働力を活用して園芸品目導入による複合化を検討しているが、3つの「ない」が存在
- ・組織や地域に適する品目が、わからない
 - ・流通や販売方法が、わからない
 - ・栽培技術が、ない

導入に踏み切れない!

<課題>

水田経営の規模拡大と水田の効率的利用による所得確保

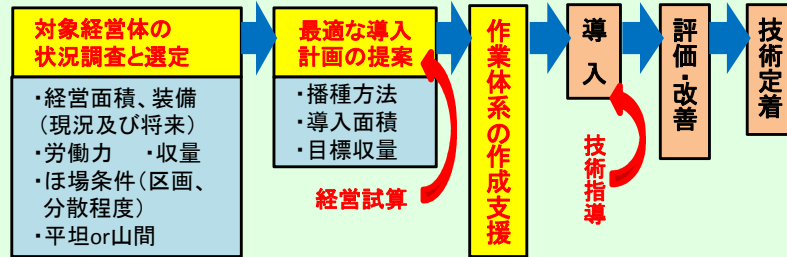
集落営農組織の複合経営による所得確保

<普及活動の内容(H23~)>

1 水稲の規模拡大を目指す個別経営体(経営面積10ha以上)への直播栽培導入支援

- (1)経営体の規模や労力に応じた直播の導入面積の試算や作業計画の作成支援
- (2)直播栽培技術の習得支援

直播栽培の推進方法と技術定着までの流れ



2 大麦・大豆の生産安定による収益性の向上

- (1)普及組織とJA、生産者が連携し、各地域の経営体毎に課題を明確化
 - (2)【大麦】
 - ・単収200kg以下の低収量農家(約3割)を重点に、排水対策や生育に応じた追肥など収量向上技術の徹底を指導
 - 【大豆】
 - ・収量が多く、品質の高い新品種「里のほほえみ」への切り替えとそれに伴う栽培技術の普及
- ⇒実証圃設置や、講習会による栽培技術ポイントの周知



大麦排水対策実証圃の設置

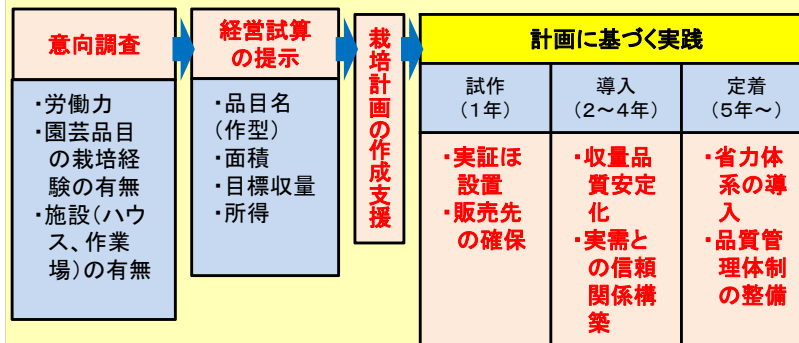
集落営農組織への複合経営の導入支援

- (1)全組織へ導入を働きかけ、導入意思のあった組織(8組織)に対して、意向調査を実施し、経営評価に基づいて品目リストを提示
- (2)定着までの間、実践段階に応じた栽培技術及び販売対策を指導



現地での栽培風景(ダイコンの間引き作業)

複合化の推進方法と経営定着までの流れ



<活動の成果>

直播を導入する経営体が増加

- ・経営面積10ha以上の個別経営体 (H22)114経営体のうち導入27(定着6、移行中21) → (H26)135経営体のうち導入43(定着21、移行中22)
- ・直播栽培面積 目標達成(H27:504ha)

【直播導入事例】

規模拡大と直播導入による作期分散と所得向上

水稲作付体系	H22	H26
移植 (早生3:コシ7)	10 ha (早600,コシ540)	7 ha (早600,コシ540)
直播 (湛水コシ)	—	7 ha (コシ500)
面積	10 ha	14 ha

()は単収:kg/10a

労働時間(10a当たり)	H22	H26	農業所得(万円)	H22	H26
	13.3 hr	12.1 hr		357	543

※ 労働力:家族2人、新たな投資:直播播種機1台(田植兼用機)
※ 所得は交付金等を含む

大麦の単収と収益性の向上

- ・収量向上技術の実践による低収量農家の単収底上げ
H26年産 実施農家単収286kg(未実施農家単収221kg)
→10a当たり9,395円の所得向上(交付金を含む所得)

大豆の単収と収益性の向上

- ・「里のほほえみ」面積 H22: 0→H26: 153ha (管内大豆面積の37%)
- ・H26年産単収 里のほほえみ:197kg エンレイ:156kg
→10a当たり11,263円の増収(交付金を含む純益)

複合経営に取り組む集落営農組織の増加

H22: 2組織 → H26: 8組織

【複合化事例】

段階	導入品目と複合部門の実績												
定着(2組織)	Y(だいこん、かぶ) ※だいこん(H16年導入) かぶ(H24年導入) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>面積(a)</th> <th>所得(万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>150</td> <td>220</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>190</td> <td>467</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>210</td> <td>649</td> </tr> </tbody> </table>	年	面積(a)	所得(万円)	H22	150	220	H24	190	467	H26	210	649
年	面積(a)	所得(万円)											
H22	150	220											
H24	190	467											
H26	210	649											
導入(5組織)	A(葉ぼたん、アスター) ※葉ぼたん(H19年導入) アスター(H21年導入) <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>面積(a)</th> <th>所得(万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H22</td> <td>18.3</td> <td>105</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>19.9</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>22.9</td> <td>122</td> </tr> </tbody> </table>	年	面積(a)	所得(万円)	H22	18.3	105	H24	19.9	86	H26	22.9	122
年	面積(a)	所得(万円)											
H22	18.3	105											
H24	19.9	86											
H26	22.9	122											
試作(1組織)	N(にんじん、かぶ)、I(にんじん、フリージア)、IK(かぼちゃ)、H(葉ぼたん)、S(葉ぼたん、ひまわり)												
	T(葉ぼたん)												

<今後の課題>

【水稲】さらなる直播導入の拡大
目標600ha

【大麦】未実施農家に対し、個別に技術浸透を図り、単収350kgを実現

【大豆】優良種子を確保し、新品種「里のほほえみ」の作付比率を拡大
100%

【所得確保に向けて】水稲・大麦・大豆体系の定着を拡大

【複合経営定着組織の拡大】2 → 8組織

定着に向けて、技術課題を解決し、所得向上を実現

先行モデル事例として、他の組織へ普及